

5月21日 マタイによる福音書 28章 16～20節 今日の説教から

説教題：「大宣教命令」

今日の聖書箇所では、復活のイエス様に出会い、その言葉によって宣教活動に駆り出される弟子たちの姿が記されています。ここで弟子たちは「大宣教命令」、ガリラヤから異邦人への伝道が始まるその命令を受けるのですが、イエス様に出会っているにもかかわらず「疑う者もいた」と今日の箇所には記されています。弟子でさえも疑う、しかも一番イエス様の近くにいて、一番イエス様のことを知っていた弟子たちの中に、イエス様の復活を疑う人がいたのです。そしてその疑いは、イエス様の行動によってではなく、イエス様の「言葉」によって晴らされることになるのです。

この福音書の著者マタイは、癒しや復活といった特別な奇跡を目撃することではなく、「言葉」というものによって人々を信仰へと導けるという確信がありました。イエス様が与える言葉によって、そしてその言葉に従うことによって疑いが克服されるのです。

今日の箇所のイエス様の言葉は、弟子たちを宣教へと駆り出しました。彼らが授けた洗礼が「父と子と聖霊」によって行われるように、といイエス様は語っています。私たちは洗礼が「注がれるもの」というイメージを持っていますが、実際に私たちが体験した洗礼は、私たちの目にはそう見えていなかったとしても、私たちにも神様の霊が鳩のように下ってきていて、神様の声が「これは私の愛する子」と私たちのもとまで響き、そして洗礼を受ける私たち一人一人が、洗礼者ヨハネから洗礼を受けたイエス様と同じ場所に立っていたのです。

このマタイ福音書は、今日のイエス様の言葉で締めくくられています。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」という言葉が福音書の最後の言葉となっている、いえむしろ、その先に続く私たちの世界への、最初の一言となっているのです。それはつまり、私たちがかつて洗礼を受けたその時も、そこに、ともに、イエス様はいてくれていた、その事をマタイは伝えようとしているのです。

マタイ福音書の初めには、ある預言の成就が示されていました。マタイによる福音書 1章 22～23節「このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」イエス様は人の子となることで、私たち人間と共に生きる方になりました。そしてイエス様は復活によって、ただの人の子ではなくなることで、私たち人間と、永遠に共に生きる方となりました。私たちが神様と共に生きることができるのだと教えてくれたイエス様は、その命をもって、私たちと共に生きてくれる方となったのです。

私たちに教えられた正しいこと、それは私たちが決して一人で生きているのではなく、いつもそばに神様が、イエス様が共にいてくれているということです。私たちが教えられた「正しく生きる」ということ、それはイエス様の導きに従い続ける、神様の御心に従い続けるということです。その導きに支えられながら、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マタイによる福音書 28 章 16～20 節

- 16:さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」